

事業を通じてSDGsの活動を広げる マングローブ植林



お客様とともに、SDGsに貢献する活動の象徴として2020年2月から「マングローブ植林」を開始しました。これは対象の複合機1台をお客様に導入いただくごとに東南アジアにマングローブ1本を植林するものです。2022年度からは、プロダクションプリンターにも対象を広げています。



フィリピン共和国

パートナー：特定非営利活動法人イカオ・アコ
ネグロス島シライ市Balaring 村・Chona 村・Dapdap 地区
ボホール島Alumar 村

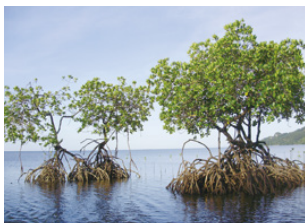


インドネシア共和国

パートナー：ワイエルフォレスト株式会社
リアウ諸島州ピンタン島ペナガ

両国合計 約**21**万本

(2022年3月末累計)



日本

最新オフィス複合機「RICOH IM C製品群」は優れた省エネ性能や両面利用率・集約利用率といったeco指数の表示などにより、オフィスにおける環境負荷の削減に貢献します。

【年間削減効果】

リコーカラー複合機®導入
+ マングローブ植林による
CO₂削減効果

1台あたり

11.51kg-CO₂



※ RICOH IM C6000 / C5500 / C4500 / C3500 / C3000 / C2500 製品群

東南アジアで植林活動を行う理由 ～ 6つのSDGsゴールに貢献するマングローブ～



地球温暖化による影響が世界各地で顕在化する中、CO₂の吸収源としてマングローブへの注目が高まっています。森林にはCO₂を吸収・固定する能力がありますが、その量で比較してみると、スギ人工林が1haあたり約302tなのに対し、マングローブは799～1,283tにも及びます。常夏の東南アジアでは30～40mの大きさにまでマングローブが育ちます。木は炭素の塊ですから大きければ大きいほど、多くのCO₂を吸収・固定することができます。また、マングローブは沿岸域に生息するため、広大な植林面積があります。日本にも植林可能な土地はありますが、限度があり、大規模に行うことはできません。

つまり、日本よりも東南アジアで植林を行う方がCO₂削減により貢献できるのです。

そしてマングローブが注目されている理由は、それだけではありません。マングローブは海と陸の間にあり、津波や高波の被害を軽減する防災機能を備えています。また、独特の形状をした根元は水辺の生物の棲み家となり、豊かな生態系を育みます。ここで育つエビや魚は、地元の人々の貴重な収入源ともなりますし、食料安全保障の観点でも重要な役割を果たします。

このように、マングローブは多くの恵みを私たちにもたらしてくれます。



温暖なインドネシアでは通常、年間で80cmほど大きくなる



植林作業を行う地元住民のアディさん。マングローブ林が将来の家計を支える貴重な収入・食料源となることから、地元の人々が自発的に維持・管理に参加している。

インドネシア「リコー ビンタンの森」における生育状況

世界中でマングローブは年々減少しており、特に顕著な国がインドネシアです。同国では1980～2000年の20年間で、マングローブ林の約30%の面積が減少しています。主な原因はエビの養殖。経済を支える重要な産業である一方、養殖池を開発するためにマングローブが次々と伐採されていきました。また、餌や病気予防の抗生物質等が大量に投与されるため、数年で土壌は劣化し、汚染された養殖池がそのまま放棄されるということが繰り返行われてきたのです。

こうした環境破壊を食い止めるため、2006年より活動しているのがワイエルフォレストです。同社では、放棄された養殖池に植林をすることでマングローブの再生を目指す「シルボフィッシャリー」と呼ばれる手法を推進してい

ます。マングローブの落ち葉が餌となるため飼料の投入が不要なこと、干潟への植林に比べて短期間で成果が確認できることなどから、持続可能な森林管理・水産養殖の手法として、地域住民にも受け入れられています。

「早ければ、半年～1年ほどで魚が、3年ほどでエビの養殖ができるようになります。リコー・ジャパンとの協働は2020年から始まりましたが、『リコー ビンタンの森』でも魚の姿が見え始めており、地域の人たちも喜んでいます」（ワイエルフォレスト 阿久根様）

収穫された水産資源は地域の人々の収入になり、経済的な自立を支えます。マングローブの植林が地球環境保全だけでなく、人々の暮らしの豊かさにもつながっています。

VOICE

▶ 現場で植林を実施するパートナー 地域の人々と価値観を共有し長期的な活動に

リコーグループは古くから環境問題に取り組まれており、環境意識の高さは日本企業の中でもトップクラスだと思います。そのような企業と価値観を共有し、パートナーを組んで植林を進めていけるというのは、我々にとって本当に有難いことです。現在、マングローブ林を利用したエコツーリズムのようなアイデアも地域の人々から出始めています。こうした可能性を掘上げていって、活動を長期的なものにしていけたら何よりです。



ワイエルフォレスト株式会社
代表取締役社長
阿久根 直人 様

▶ 自社でも植林活動を始めたお客様 多くの気づきと改善のきっかけをいただきました

最初は海外での植林活動は身近ではないように感じていましたが、地元の方たちとともに活動する姿や、苗木が成長していく姿を動画で紹介いただき、皆様の植林活動に対する熱意や想いに触れる中で、「私たちにもできることがある」と感じるようになりました。当社もまずはSDGsの取り組み方針を全社員に浸透させ、地域社会との関わりや社内での改善活動など、全社一体となって取り組んでいきたいと考えています。



小島化学薬品株式会社
取締役執行役員
管理本部 本部長
櫻井 志乃 様